

公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター

理事会議事録

1. 開催された日時 令和2年2月5日(水) 9時30分～10時10分
2. 開催された場所 一宮地場産業ファッションデザインセンター 2階第1会議室
3. 総数及び定足数 総数8名、定足数5名
4. 出席理事数 8名
(出席)中野 正康、豊島 半七、古池 哲朗、加藤 錠司郎、高木 宏昌、則竹 安郎、早川 隆雄、
上田 康彦
5. 出席監事 石井 慶朗

6. 議題

決議事項

議案第1号「令和2年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込み」の件
報告事項

議案第2号「平成31年度事業進捗状況」の報告の件

7. 議事の経過及びその結果

定刻に事務局から理事会の開会宣言をした。本日の出席は理事現在数8名中8名であり、理事会として成立していることを宣言し、また定款第35条に基づき中野理事長が議長、同第39条第2項に基づき議事録署名を中野理事長及び石井監事とし、議案の審議に入った。

(1) 決議事項

○議案第1号「令和2年度事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込み」の件
議長の指示により、事務局から議案書及び参考資料に沿って説明した。

事業の全体概要としては、世界一のエコ、エシカル、サステナブルな産地を目指して3P事業を引き続き実施し、環境等に配慮し、若者が地元で就職・定着するような人材育成事業、マーケット等の情報提供や技術支援、販路開拓支援により尾州地域の繊維産業全体の底上げになるよう一層充実を図っていく旨説明した。

また、資金調達及び設備投資の見込みについては、現在のところ予定はない旨説明した。

質疑応答の主な内容については次のとおりであった。

早川理事：尾州のカレントとは、どういった内容なのか。

事務局：尾州のメーカーに勤めている若手による活動で、11月に木玉毛織で「びしゅう産地の文化祭」と題し、工場見学でシヨンヘル織機を動かして見せたほか、いろいろな手づくりの商品や展示、繊維製品を販売するなどのイベントを開催しており、2千人ほどの来場者があって大変盛況だった。日頃繊維とは関わりのない方々も訪れ、予想以上に興味を持たれた方が多かったという印象である。

早川理事：周知は、どのように図ったのか。

事務局：SNS、具体的にはInstagram、フェイスブックを通じて広まった。

理事長：来年度も文化祭に向けた支援をするのか。

事務局：事業計画を提出していただいて、その内容により判断していきたい。

理事長：何をやるかわからなければ、市の場合は予算化は難しいが、FDCの支援は11万円ということか。

事務局：尾州を盛り上げていくうえで、必要と判断し計上させていただいた。

以上で、質疑が尽き議案第1号についての承認を得た。

(2) 報告事項

○議案第2号「令和2年度事業進捗状況」の報告の件

議長の指示により、事務局から議案書に沿って説明した。

質疑応答の主な内容については次のとおりであった。

上田理事:海外販路開拓支援事業の「2019 中国向けテキスタイル輸出商談会 in 一宮」については、中国から3社参加予定だが、コロナウィルスによる肺炎の感染拡大の折、予定通りでいいのか。

事務局:中国からは通訳とアテンドで合計6名と聞いている。渡航禁止、受入禁止という形になれば中止せざるを得ない。前回のジャパンヤーンフェアでは、名刺の上では中国からの来場者は40名を超えている。お尋ねの商談会の3社は制限のかかっているメーカーではないが、今後の状況を注視しているところである。

理事長:日々情報を追って、最新の情報で対処できるようにしてほしい。

則竹理事:JTCのグランプリで、この地域の受賞者の割合はどれくらいか。

事務局:きちっとした数字を出したわけではないが、通常、グランプリか準グランプリのいずれかに尾州の応募者が入賞している。

以上をもって議案の審議等を終了したので、午前10時15分、議長は閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議事録署名人は記名押印する。

令和2年2月5日

公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンター

理事長

中野正康

監事

石井慶朗